

「トピックス」 令和8（2026）年度

第6回 「部活動改革が目指す新たな学びの環境」

—広島県部活動改革推進計画（令和8年7月）—

令和8年7月、広島県教育委員会は「広島県部活動改革推進計画」を策定しました。本計画は、急速な少子化や教員の働き方改革など、学校部活動を取り巻く環境の変化を踏まえ、生徒が将来にわたってスポーツや文化芸術活動に親しめる環境を持続的に確保することを目的としています。

計画策定の背景には、県内の中学生人口が今後10年間で約3割減少すると見込まれ、これまでと同じ学校単位で部活動を維持することが難しくなるという現実があります。また、競技経験のない教員が部活動を担当するケースも少なくなく、専門的な指導体制の確保が課題となっています。

こうした状況を受け、広島県は「地域のスポーツ・文化資源を最大限活用し、生徒のニーズに応じた多様で豊かな活動を実現すること」を目指す姿として掲げています。

部活動改革では、学校部活動の教育的意義を大切にしながら、地域全体で子どもたちを支える仕組みへの転換が進められます。学校部活動には、技能の向上だけでなく、自主性や協調性、責任感、達成感、仲間との人間関係づくりなど、多くの教育的価値があります。改革では、こうした価値を継承・発展させるとともに、学校の枠を超えた仲間との交流や、専門性を持つ指導者による指導、多世代との交流など、新たな価値の創出も期待されています。

計画では、令和8年度から13年度までを「改革実行期間」と位置付けています。基本的には休日の活動から地域クラブへの展開を進めながら、地域事情に応じて学校と地域が連携する取組も継続されます。中山間地域や離島など、

地域展開が難しい地域については、部活動指導員の配置や学校間連携など、実情に応じた柔軟な対応が示されています。

改革を支える具体的な施策としては、部活動指導員の配置支援や地域指導者リストの整備、教職員の兼職兼業に関する制度整理、指導者研修の充実など、人材確保に重点が置かれています。また、合同部活動や拠点校方式の導入、地域との調整役となるコーディネーターの配置、生徒・保護者への情報発信、地域クラブ活動の運営支援、さらには家庭の費用負担軽減策まで、幅広い支援策が盛り込まれています。

部活動改革は、単に学校から地域へ活動の場を移すことが目的ではありません。生徒一人一人が、自分の興味や能力に応じて継続的に活動できる環境を整え、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担いながら、地域全体で子どもの成長を支える新たな仕組みを構築することが目指されています。

今後は、市町ごとの実情に応じた取組が進められることになります。地域の特性や人的・文化的資源を生かしながら、生徒にとってより充実した活動環境を実現していくことが期待されています。

安芸太田町では、令和6年10月に「部活動地域展開検討協議会」を発足し、現在までに2回の会議を重ねています。その歩みは決して早いものとは言えませんが、慎重かつ着実に前進しています。既に、「学校・園・所支援ボランティア制度」にも、数名の方に「部活動の指導」で登録をいただいています。部活動の地域展開は、「持続可能な町づくり」の大切な鍵となっています。安芸太田町教育委員会は、町民の皆さんと情報を共有しながら、中学生ファーストの部活動地域展開に努めます。

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人